



弟子屈 → 糠平

7班 短食 2 の 3
(植木, 上田, 上羽, 入谷)
(北牧, 河上, 杉村, 岩崎)

7月22日(第8日目)

今日はアイヌの伝説を秘めたマリモの住む阿寒湖へ行けるとあつて皆わくわく、弟子屈を後に阿寒国立公園をバスは走る。

エゾ松、トド松の天然林がどこまでも続いている。ガイド嬢が二つの松の見分け方を教えてくれた。木肌が赤黒くて荒くて、さしずめ北海道男児のようなのがエゾ松、木肌が滑らかで白樺に似た京美人のようなのがトド松だそうだ。

昨日の寝不足を若さで吹き飛ばし、歌声やおしやべりお菓子をつめこむことでよく口の動くこと…車中はいつもの如く賑やかさを取り戻した。ガイド嬢の教えてくれたマリモの歌、皆のお気に入り何度でも何度でもアンコール。自分の声に聞きほれてうつとり。こつくり……。やつと目的地の阿寒湖畔に到着。遊覧船に乗り込んだ。摩周湖のあの神秘的な水の色とは又違つた、マリモの緑が染まつたかのような湖水はガイド嬢に聞いたアイヌの悲話を悲しく又美しく思い出させた。

「晴れば浮かぶ水の上、曇れば沈む水の底」と歌にある様にこの湖でアイヌの悲しいロマンスを旅人の心に語り伝えている、深い湖の中の神秘的なマリモを想像していたのに……チュール島の水槽の中のマリモを前にして少々ガツカリ、20cm以上の大きなマリモを見てびつくり。でもその緑の色の深さと、ピロードの様な滑らかさはスバラシク、北海道旅行の記念に持つて帰りたいような気持ちを起させた。

アイヌの悲話を秘めた、ある意味で私達に一種の哀れみを感じさせたマリモと、深く愁いに沈む湖をあとに私達は再びバス中の人となり、振動を子守歌にコックリ、コックリ…バスは一路、今夜の宿、糠平へと走り出した。

